わっちと芹香と年上の恋人

レフェル

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト
http://pdfnovels.net/

注意事項

このＰＤＦファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にＰＤＦ化させたものです。
この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのＰＤＦファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

【小説タイトル】
わっちと芹香と年上の恋人

【Ｎコード】
Ｎ１５４８Ｚ

【作者名】
レフェル

【あらすじ】
ＬＡＮ武さんとうちのクロスコラボ小説です！
出演するのはＬＡＮ武様のオリキャラの榊龍星、瀬川芹香、榊白姫。
うちからは神埼深紅と雨宮つぐみと藤堂辰也と秋月終夜です☆
うちのキャラが突然増えるやもしれません。
後、もしも…深紅が龍星に出会っていたらというＩＦのお話です♪
基本深紅が主役かも？

プロローグ

「んで、どこへいこか？芹香」

「……（喫茶店で甘い物食べよう？）」

町中を二人の少女が歩いていた。
一人は長身とは言えないがスタイルは良く、
黒と言うより濡れ羽色と言えるその髪は大体肩よりちょっと下位です。背は１４４センチ位ですね
少々吊り目気味の顔は愛嬌のある笑顔を浮かべており、胸はＤクラスを超えている
もう一人の少女はふわふわ水色の髪で肩までくらい。身長は１４３センチくらいと思われる。
少しクールな目付きだけど、どこか可愛らしい雰囲気がある。胸はＣクラスくらいだろう。

「ようよう、姉ちゃん達。今暇？」

「暇だよな、俺達とあそばね？」

二人が歩いているとチンピラが大勢現れて二人を取り囲む。
それを見た少女…神埼深紅は不機嫌になり隣にいる少女、瀬川芹香を守るように庇う。

「おあいにくさまやね、わっちらはアンタらみたいなロリコンと居たくないんよ」

「なんだと、このクソガキ！」

相手をあざ笑うように言うとチンピラは怒ってナイフを取り出した。
なんとも古いような手段がでてきたものだ。
そう思った深紅は懐からスタンガンを出して相手を気絶させようとすると

「……！（いや、離してくださいっ）」

「こっちにこいっ！」

後ろにいた芹香の腕をチンピラが掴んでいた。

「！芹香を離すんや！」

「嫌だね」

これに焦った深紅は助けに行こうとすると腹を殴られて、地面に座り込む。

「ぐっ…けほっ」

「……！！（深紅ちゃん、深紅ちゃん！！やめて、深紅ちゃんに何するんですか！！）」

お腹を押さえている深紅と悲鳴のような芹香の声が響く。

「こういう女にはお仕置きが必要なんだよ」

芹香の悲鳴のような声に耳をかさずに深紅に手を伸ばして髪を掴んでいると

「そんな多勢で女相手になにしてやがる」
澄んだ声が聞こえてきた。
芹香と深紅は声が聞こえた方を見ると
「なんだ、キサマは」
「てめぇなんかお呼びじゃないんだよっ！」
チンピラが青年の周りを囲っていた。
するとチンピラの一人がナイフを青年に突き刺そうとすると
「頭に血が上ると攻撃が単調化する。覚えとくんだな、ど阿呆」
青年はムッとしたような言い方をするとチンピラの攻撃をかわし、
その手を掴んでナイフを地面に落とす。
そしてギリギリと腕背中の後ろにねじる
「いだだっ！！」
「てめぇ！」
チンピラが痛がるともう一人が突撃してくるが、青年はひらりとかわして殴った。
青年は次々と襲い来るチンピラを青年が蹴散らすと見ていた他の奴らは怯えて走って逃げる。
青年が掴んでいたチンピラはすでに倒したのか気絶していた。
「大丈夫か？」

「おん、大丈夫や…助けてくれてありがとう」

青年が深紅達を見て近寄ると聞いてきたので深紅はすぐに答えた。身長は１８０くらいだろうか。とても精悍な顔立ちをしているので深紅と芹香は見惚れていた。

「大丈夫ならいいけどよ。女の子なんだから無茶とかすんなよ？」

「聞けへん言葉やけど…一応了解や」

「……（深紅ちゃん！）」

青年は心配そうに言うと深紅は苦笑いしながら答えて芹香が怒る。

これが青年…榊龍星と神埼深紅と瀬川芹香の最初の出会いであった。

プロローグ2

見舞いに行く瑞希について行くことで龍星と深紅と芹香は再会して。
時には弱気になる龍星を二人は励まし、かいがいしく世話もした。
どうしてここまで彼女達はできるのか、それはひとえに恋だからという結論しか思いつかない。
そして、3年の月日が立ち…龍星が退院した。
そのお祝いパーティーをしようということになった。
場所は龍星の家でだ。

「退院おめでとー！龍兄」

「おめでとうです、龍兄♪」

辰也と瑞希が笑顔で本当に嬉しそうに祝う。

「おう、心配かけたな」

どこか照れ臭そうに龍星は皆に言った。

「安心したよ、龍が無事退院できて。ね、つぐみ」

「うん、龍星君が無事でなによりだよ」

明久もどこか嬉しそうに言うとつぐみも嬉しそうに笑って言う。

「わんわん♪」

飼い犬のヤマトもすっごく嬉しそうに尻尾を揺らして鳴く。

「ほんまに元気なってよかったえ」

「……♪（そうだね♪）」

深紅と芹香も微笑んで言う。

「さ、みんなどんどん食べてねぇ～♪」

のほほんと言う女性はつぐみの母親で雨宮はるかさん。
つぐみをそのまま大人にした感じの人だ。
どこかのほほんとしている人で龍星の母親とは仲が良い。

「今夜は飲んで飲んで飲みまくろう！」

『おー！』

龍星の音頭の声に全員が手をあげて言う。
しばらくして、パーティーの続く中、深紅と芹香は互いの顔を見て頷き龍星を中庭へと誘い出した。

「な、龍星。ちょっとええか？」

「……（お話があるんだけど）」

「おう、いいぜ？中庭でもいくか」

深紅と芹香は笑顔で聞くと笑顔で龍星は答えた。
3人で中庭に向かった。

「何するのかな？」

「こ、告白だったりして」

「行ってみる？」

「そうだな」

その様子を見ていたつぐみ達はこっそりと龍星達の後をつける。

「んで、話って？」

「……（わたし達は貴方が好きです！付き合ってください！）」

「龍星、わっちは女2人を幸せに出来んような懐の狭い男に惚れた覚えはないで」

龍星が小首をかしげて聞くと芹香が先に告白して深紅も後から告白する。

芹香は緊張した声で言い、深紅も若干緊張したような感じで伝える。

「それで二人はいいのか？棘の道を進むんだぞ？」

「……（いいの。深紅ちゃんと一緒にりゅうくんに愛されたいから）」

「覚悟はできとる…たとえ認められんことでも」

龍星が心配そうに言うと芹香は気持ちを伝えるように言い、深紅も龍星を見て言う。

「（こ、告白だったよ／／／）」

「（深紅ちゃんに芹香ちゃん、凄いです／／／）」

「「（……）」」

つぐみと瑞希は告白内容を聞いて赤面し、明久と辰也は黙って考えていた。

「…わかった。二人を平等に愛し、幸せにすると誓う」

「……（そ、それじゃ）」

「いいんやね？」

龍星は真面目な顔で言うと芹香は涙目で言い、深紅は安堵したように言う。

「あぁ。これからよろしくな、深紅、芹」

「……（うん！りゅうくん！）」

「こちらこそ、よろしゅうな♪」

笑顔で龍星が言うと芹香と深紅も笑顔で答える。

そんな時、がさがさっと音がした。

「ん？誰かいるのか？」

茂みに近寄り、見るとそこには明久達がいた。
「な、盗み聞きとは何してるんだー！！」
「「て、撤退！」」
「「ひゃ！？」」
龍星が怒鳴ると明久と辰也はお互いの想い人を抱き上げて走った。
その様子を龍星は呆れながらため息をついた。
深紅と芹香は苦笑いを浮かべるだけ。

おまけ☆

「つぐみ…話があるんだけどいいかな？」
「え？別にいいけど」
明久が緊張したように言うとつぐみは不思議そうな表情をして頷いた。
中庭に移動すると、誰もいないことを確認して明久は口を開く。
「僕はつぐみが好きだ。だから、付き合ってほしい」
「え…本当にあたしのこと」
まっすぐつぐみを見つめて明久が言うとつぐみは呆然とした様子で

聞き返す。

「うん、好きなんだ。誰にもつぐみを渡したくないほどに」

「嬉しい…嬉しいよ…あたしもアキ君好き…でも…あたしでいいの？」

明久が言うとつぐみは涙目で言い、不安そうに聞き返す。

「でじゃなくて、つぐみがいいの」

「アキ君…ありがとう。あたし幸せだよ」

明久は笑顔でつぐみの頬を撫でて言うとつぐみは涙目で答えた。
カップルがここにまた一人成立した。

べつの場所では

「た、辰也くん！お話があるんですけど」

「話？いいけど」

瑞希が緊張気味に言うと辰也は不思議そう思いながらも答える。
瑞希はそれを聞いて安堵すると深呼吸をして

「私は貴方が好きですっ…付き合ってください」

「！…俺も瑞希が好きだ」

緊張気味に瑞希が告白すると辰也は驚くが嬉しそうに笑って言う。

「えっ…本当ですか？」

「あぁ…叶わないと思ってたからな。でも、瑞希から告白させるなんてダメだな」

瑞希が呆然としていると辰也は苦笑いして言う。

「そんなことないです！辰也君は答えてくれましたもん！」

「ありがとうな、瑞希。俺は瑞希を絶対幸せにするよ」

瑞希はきっぱりと言うと辰也は笑顔で言い、抱きしめた。

またここにカップルが誕生した。

それを見ていた美桜とはるかはのほほんとしながら笑っていた。

「あらあら…若いわね～☆」

「後で、瑞穂ちゃんに知らせなくちゃね」

と笑顔で会話をしたいことは誰も知らない。

ＰＤＦ小説ネット発足にあたって

ＰＤＦ小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は２００７年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になろうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連＝横書きという考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にＰＤＦ形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのＰＤＦ小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能（たんのう）してください。

この小説の詳細については以下のＵＲＬをご覧ください。
http://ncode.syosetu.com/n1548z/

わっちと芹香と年上の恋人

2011年12月5日23時54分発行